



児童に伝わる地域の心

～大乗小学校の15年続く地域と児童の壁画共同制作～

本校では、毎年6年生が海辺の護岸・横13メートル分に地域の方々と壁画を描く。まずは6年生が10分の1サイズの絵を紙に仕上げる。壁画制作前には、地域が今年の壁を洗い、掃除をし下地を塗り、壁画専用ペンキで白色を塗り、長いキャンバスが完成する。制作当日は、絵の具担当の方もいて、児童が「深い海の色をください。」と言うと、慣れた手つきで色ができ、渡される。壁は凸凹しており、6年生達は筆で色を押し込むように塗っていく。地域、保護者も加わり、壁に向かう。半日かかって完成した時は、「今年もいい絵が仕上がったね。」と皆笑顔になる。この壁画、15年間少しも劣化しない。毎年全ての壁画に保護剤を塗り、メンテナンスがされている。地域の、児童を大切にする心は、日々全校児童に伝わっている。大乗にお越しの際はご覧ください。

(竹原市立大乗小学校・柏木 雅子)

7月1日	『会報一九六号』発行	(東京)
7月1日	全連小特別支援教育委員会	(東京)
7月2日	理事会	(東京)
7月4日	全連小教育環境委員会	(東京)
7月8日	全連小役員懇談会	(東京)
7月8日	教育研究小委員会	(東京)
7月9日	全連小会長連絡協議会	(東京)
7月18日	速報No2発行	(東京)
7月22日	幹事会	(東京)
7月23日	教育調査小委員会	(岡山)
7月25日	第1回中国地区理事会・研修会	(岡山)
8月7日	第61回県連小教育研究大会北部大会	(庄原市)
8月19日	教育調査全体会	(東京)
8月26日	総務会	(東京)
9月3日	理事会	(東京)
9月9日	県公連不祥事防止対策特別委員会	(東京)
9月18日	速報No3発行	(東京)
9月29日	全連小教育環境委員会	(東京)
9月29日	提出並びに意見交換	(東京)
9月30日	全連小特別支援教育委員会	(県教委)
10月7日	県公連理事会・評議員会	(東京)
10月7日	全連小教育環境委員会	(東京)
10月8日	教育研究小委員会	(東京)
10月14日	幹事会・県市連絡協議会	(東京)
10月15日	全連小理事会	(東京)
10月16日	17日 第77回全連小研究協議会福岡大会	(福岡市)
10月21日	人事給与全体会	(福岡市)
10月28日	広報委員会	(東京)
10月29日	教育調査小委員会	(東京)
10月30日	全連小三地区対策・調研担当者連絡協議会	(福岡市)
11月4日	全連小特別支援教育委員会	(東京)
11月11日	県公連不祥事防止対策特別委員会	(東京)
11月20日	第2回中国地区理事会・研修会	(倉敷市)
11月21日	第72回中国地区教育研究大会岡山大会	(倉敷市)
12月1日	『会報一九七号』発行	(倉敷市)

※会場の略号
(東京) 東区民文化センター



発行所
広島県連合小学校長会
事務局
東区光町1-11-5
地産ビル1003号
電話 (082) 263-6381
発行者 山口美穂

児童に伝わる地域の心……………	もくじ
事務局日誌……………	1
教育研究大会北部大会を終えて……………	2
学校経営……………	3
	4
朝会講話……………	5
県教委だより……………	6
随想……………	6
あとがき……………	6

事務局日誌

広島県連合小学校長会から「新たな風を！」

第六十一回広島県連合小学校長会

教育研究大会北部大会を終えて



北部大会現地実行委員長 小原 智子

第六十一回広島県連合小学校長会教育研究大会を、自然豊かで、合言葉が「庄原の子供はいつも今読んでいる本が靴に入っています」とする読書の町、庄原市で開催しました。

本大会に向けて、前大会の前日準備から参加させていただき、尾道市小学校長会の校長先生方の熱量に圧倒されると同時に、この大会を庄原市の十三名の校長で担うことの重大さを感じたことを今でも覚えています。この重圧をバネに、庄原市小学校長会 中田弘幸会長を中心に、庄原市開催に向けた決意を新たに、本市出身で初の県連小女性会長 山口 美穂校長先生の「新たな風を！」のスローガンのもと、一致団結して前に進めていきました。これまで、庄原市の子供たちのために常に前向きに連携を行ってきた庄原市小学校長会の力を発揮する時だととらえていきました。

大会当日は、大変お忙しい中にも関わらず、お越しいただきました広島県教育委員会教育長 篠田 智志様、庄原市教育委員会教育長 牧原 明人様からご祝辞をいただきました。また、記念講演においては、本市の誇りであり、国内外で活躍されている太鼓奏者 林 英哲様から、「彼方からの呼び声」英哲太鼓の世界」という演題で、校長自身の人生観や考え方の幅を広げるお話を伺うことができました。そして、五つの領域で構成される十の分科会においては、テーマごとに各地区の校長先生方から貴重な実践が提案され、校長先生同士の熱心な協議や助言者の先生方の丁寧な指導により、充実した分科会になりました。

本大会では、二次元コードでの受付や、資料は参加者自身で持参すること、リーフレット形式の要項等、これまでにない形での運営も行いました。「新たな風を！」を念頭に庄原市小学校長会のメンバーで知恵を絞り、結束したこと達成感を味わうとともに、より一層強い絆で結ばれ、高まり合うチーム庄原市小学校長会になったと思います。

令和八年度は、福山市で本大会及び第七十三回中国地区小学校長会教育研究大会が開催されます。中国地区大会ということで、福山市小学校長会の皆様が早期から準備期間を設けて、着々と進めておられます。福山市小学校長会の皆様の結束力で必ず成功裡に終わることと思っております。そして、再び、同じ課題や喜びを知る多くの仲間が集い、共に実践を交流する中で、校長としての資質・能力を高めるとともに、大会を充実させていくことができ、大会があることにわくわくしております。大会の充実には、チームとしての県連小の強さになります。ともに、広島県の全ての子供たちを健やかに育ててまいります。

最後になりましたが、本大会に際しまして、格別なご指導、ご支援をいただきました広島県教育委員会、庄原市教育委員会、庄原市小学校長会を助けてくださった三次市小学校長会の皆様、県連小 山口 美穂会長様や事務局をはじめとする関係者の皆様に深く感謝申し上げます、大会を終えての挨拶とさせていただきます。

(庄原市立東城小学校)

第六十一回広島県連合小学校長会 教育研究大会北部大会

一 研究主題

自ら未来を拓き ともに生きる豊かな社会を創る 日本人の育成を目指す小学校教育の推進

夢や志をもち他者と協働して主体的に新たな価値を創り出す子どもを育成する学校経営

二 期日

令和七年八月七日(木)

三 会場

庄原市民会館
庄原小学校

四 日程等

1 開会行事
2 講演 演

〔講師〕

太鼓奏者

林 英哲 氏

〔演題〕

「彼方からの呼び声
〜英哲太鼓の世界〜」

3 分科会

4 閉会行事



学校経営

「学び続ける力の育成

——笑顔あふれる学校——

やる気・やさしさ・元気いっぱいの子どもの育成

東広島市立小谷小学校長 松下 篤

一 はじめに

本校は、健康教育に昭和三十三年から取り組んで六十一年以上。その内容は食育はもちろん、朝のランニング、パワーアップタイム、目の休憩、いい歯の日など、多岐にわたる取組を継続してきた。

なかでも特徴的なのが、子供たちが全員持っている「健康ノート」。一年生から六年生まで六年間で六色の健康ノートを使って自分の健康への関心を大切に育てている。児童にも教職員にも「健康第一」ということを常に伝えている。



二 学校教育目標の具体化・意識化

本校の学校教育目標は、「学び続ける児童の育成」である。本年度もこの目標は継続しているのではあるが、四月に教諭時代から十五年ぶりに校長として着任し、全教室を見て回った際にあることに気が付いた。それは教室前面上方に学校教育目標が張られてないということである。当然のことながら、教職員も児童も誰一人自校の教育目標を言うことができなかった。

そこで、就任式での六年生児童の歓迎の言葉の中で「小谷小学校を笑顔あふれる学校にしたい。」という思いを大切にして、学校教育目標に「笑顔あふれる学校」を加えた。そして、

○「やる気」いっぱい

＝まずはチャレンジ

○「やさしさ」いっぱい

＝「ありがとう・ごめんなさい」を大切に

○「元気」いっぱい

＝早寝・早起き・朝ごはん

という「三つのいっぱい」をキーワード化した。

リニューアルした学校教育目標を全

クラスに掲示し、全員が意識・共有化しながら、「安心・安全な学校」、「環境が整った学校」、「家庭・地域とともに子供を育てる学校」、つまり「毎日行きたくなる学校」になるよう取組を進めている。

三 主体的に学び続ける児童の育成

本校では学校と家庭学習をつなぐ『ジョイ☆スタ』の実践を行い、個別最適な学びと協働的な学びの一体化を図ってきた。また昨年度は、研究主題を『分かった』『できた』を実感し、主体的に学び続ける児童の育成・スタディ・ログでの学びの積み上げを通して」として研究を進めた。児童の「分かった」と教師の見取りとのずれをなくすため、「何が分かったよいか」「何ができるよいか」を児童と教師とで共有し、その学びの足跡をスタディ・ログとして蓄積していくことで、さらなる「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図った。

ICTを活用したログの蓄積の有効性について成果は得られたものの、児童アンケートや教師の振り返りから、「自力解決の際に、スタディ・ログを活用して課題解決に取り組んでいたか」「どのようにスタディ・ログを活用させるとよいか」という二点に課題があることが分かった。

そこで本年度は『分かった』『できた』『がんばった』を実感し、主体的に学び続ける児童の育成」というテー

マで「算数科」「体育科」を研究教科として取り組むこととした。

その際、ICTを効果的に活用し、「思考の流れ」に焦点を当てた学びの足跡（スタディ・ログ）を蓄積することと授業改善を行い、算数科・体育科において、個別最適な学びと協働的な学びの一体化を図れば、「分かった」「できた」「がんばった」を実感し、主体的に学び続ける児童の育成につながる。と考えている。

四 終わりに

これから児童たちが生きていく社会は、これまでも増して変化が激しく、複雑で予測がしにくい社会になるはずである。もう既に、進化した人工知能AIが活躍し、今まであった職業の多くがなくなり、自動化されて人が必要ない時代が始まっている。これから歩んでゆく道は決して楽しいことばかりではない。自分自身が考え決めなくてはならないことも増えてくるであろう。困難なことから逃げたり人のせいにしたりのではなく、挑戦し立ち向かう勇気と強さを持った人になって欲しいと思っている。だからこそ、もしも、何かに悩んだり迷ったりしたときには、「私たちにはここ『ふるさと小谷』がある。だから大丈夫」と思えるように、児童一人一人が、笑顔あふれる学校にしていきたい。

学校経営

「気づいて考えてやってみる！」

— 自分を大切に 人を大切に —

力をあわせて——

安芸太田町立加計小学校長 萩原英子

一 はじめに

本校は、明治八年（一八七五）年に開校し、旧加計町にあった十一の小学校を統合しながら現在に至る。今年度は「加計地区の小学校教育が始まって百五十周年」を迎える。地元の学校がなくなった寂しさを抱える地域の方々とも喜びを分かち合いたくして記念の一年に取り組んでいる。私が校長として着任した年は全国的な臨時休校が実施され、それまでの結びつきが制限される時期の始まりであった。あれから六年。家庭・地域とのつながりの再構築を模索した一端を振り返ってみたい。

二 学校教育目標と校長ミッション

学校には諸先生方が築いてこられた歴史がある。学校教育目標もその一つである。そこに敬意を払いつつ、目指す学校の姿を児童とストレートに共有したいと考えた。着任二年目。基本的な方向性は変えず、児童も意識できる平易な言葉にし、新しい教育目標を本稿の表題のものと改めた。始業式でこの目標を児童に披露し、折に触れて目指す具体的な場面や姿を語った。学級経営、授業、行事で目標を意識し、振り返りの

視点になり始めた。児童会役員は企画する際にこの言葉を意識し考えているのがわかる。本校の児童に「加計小の目標は？」と尋ねると「気づいて考えてやってみる！」と返ってくるようになった。三年目からは「校長先生からのミッション」を始業式に伝えることにした。学校目標を体现するための具体的な視点を三つ程度掲げ、毎学期末に児童一人一人の振り返りを集約して進捗を全校で喜ぶためである。

三 子どもが創る大人が支える加計小

児童は素直で元気。保護者・地域も協力的。ありがたいことだ。だが何か物足りない。つながりが制限された時期の影響だろうか、学校の取組が脆弱なためだろうか——もつと我が子の成長に願いを託し関わりを楽しんでくれたらと考えた。そこで保護者向けに本校のサブテーマを掲げた。「子供が創る、大人が支える加計小学校」である。まずは校内からできることを、と次のような取組を仕掛けていった。

（一）学校まるごと図書館

本校は九年前に本造二階建ての新校舎となった。図書室は丸窓のあるかわ

いい設えだが、よく観察するとあまり児童が通っていない。あまり本を読まないという児童もいるようだった。そこで職員と町立図書館司書プロジェクトチームを作り、「学校まるごと図書館」への取組を開始した。開放的な木造の校舎の各所に児童の動線を考えて、テーマごとの書架コーナーを設置。図書委員会や読み聞かせボランティアの協力を得て内容の充実も図った。本の見える生活が少しずつ児童を変え、不読率は0%へ。「令和六年度子供の読書活動優秀実践校文部科学大臣表彰」をいただいた。

（二）加計小百句苑

次に仕掛けたのは俳句である。加計地区は古くから地域に「句会」が多数ある文芸の町だった。地域の方の俳句百句が石碑に刻まれた「加計百句苑」もある。ただ、近年取り上げられることが少なくなかった。そこで、豊かな四季や地域を言葉にこだわって俳句で表現することに取り組んでいる。校舎内に「加計小百句苑」のコーナーを作り、日々の俳句を飾っている。全校児童がおよそ百名というのもちょうどよい。導入の年には著名な俳人に来ていただき「親子で俳句ライブ」を開催し、俳句作りの機運を盛り上げた。開始から三年、来校者にも好評だ。

（三）伝統の加計小マーチングバンド

本校には五十年近く続く「加計小マーチングバンド」がある。高学年全員参加で練習時間や指導者の確保など苦

労も多い。だが行事や地域のイベントなどで児童の演奏を披露する度に「加計小」への地域保護者の期待を感じる。大きな拍手を受け児童の地域愛も高まっていく。この十一月の地域行事で「百五十周年記念」として「大人金管バンド」が復活することになった。保護者会が盛り上がった



（四）大人も「協調学習」体験

安芸太田町では十五年間「協調学習」に取り組んできた。知識構成型ジグソー法を用い、他者との「対話」を通して一人一人の考えを良くしていくための授業研究である。一昨年度、保護者にも授業体験をしてみよう機会を作り、町や学校の取組の意図を理解してもらった。やってみてわかることもあり、「授業づくり」について保護者が語り合う姿は感慨深かった。

四 終わりに

中山間地域の小さな学校である。人口減少の波に埋もれず、「子供が創る学校、それを支える大人が集う学校」であるためにも、目標を皆で共有し、実践を一つずつ積み重ねていきたい。

朝会講話

「ひまわりのように、

まっすぐのびる夏」

会員 梶 弘樹

みなさん、学校や地域の花壇にひまわりの花が咲いているのを見たことがありますか？ひまわりは、太陽にむかって、まっすぐ上を向いて育ちます。たとえ風が吹いても、暑くても、太陽を見つめて咲こうとします。

四月に新しい学年が始まって、もう三か月がたちましたね。新しい友達、新しい勉強、新しい挑戦がたくさんありました。一人ひとりが、それぞれの場所で、ひまわりのように、まっすぐのびようとしている姿が、先生たちにとってもうれしいです。

もうすぐ夏休みが始まります。夏休みは楽しいことがたくさんあるけれど、生活のリズムが乱れて、だらけてしまう、せっかくの成長が止まってしまうかもしれない。みなさんには、ひまわりのように、暑さに負けず、のびてほしいです。

そのために、「自分の太陽」をみつけて毎日を大切に過ごしましょう。ここで少し考えてみてください。

あなたの『太陽』は何ですか？校長

先生から、自分の『太陽』を見つけるためのヒントを話します。それは、次の二つのことです。

- ・ 早寝早起きをする
- ・ 毎日すこしでも本を読む

なあんだ、そんなことかと思うかもしれませんが、でも、こうした小さなことが、まっすぐ育つための助けになります。そして、自分の『太陽』を見つければ、自分の『太陽』を見つけて、ひまわりのように元気に、まっすぐのびていくことができます。みなさんの成長した姿を見るのを楽しみにしています。

(熊野町立熊野第一小学校)

「自分の身は自分で守る」 地域防災について」

副会長 寺田 知巳

今年もいろいろな地域で大雨等による水害が起きています。このような災害が年々増えているように感じます。

皆さんの住んでいる甲山の地域は、ニュースや新聞で見えるような水害が起きないのでしょうか。そんなことはないですね。災害が絶対起きないということは、ありません。学校にいるときだけに起きるとも限りません。おうちで一人留守番をしているときに起きるかもしれません。

校長先生は、三十年前にも甲山小学校に勤めていました。その時、台風の影響で学校が休みになり、学校の目の

前の芦田川の水位が、橋の渡るところぎりぎりまで上がったことがあります。大変驚き、本当に怖い思いをしました。

では、今後、川が氾濫するような水害が起きた時、どのように行動したらよいでしょうか。この行動の仕方を考えるのが、今日の地域防災参観日です。まずは、動画「洪水から身を守るには」を見ます。どの時点でどのように行動しているか、おうちのひとりのような約束をしているか、これら二つのことに気を付けて見ましょう。

その後、防災士さんのお話を聞きながら、おうちの人や地域のひとと一緒に「ひろしまマイタイムライン」を使って、いつ、どこへ避難するのか話し合ひましょう。

災害はいつ起こるかわかりません。だからこそ防災の知識を身に付け、私たち一人一人が無事でいるために、みんなで話し合ひ、自分の身は自分で守る意識を高めることが大切です。今日は、その機会にしましょう。

(世羅町立甲山小学校)

「命の大切さを考え、 いじめのない学校へ」

理事 柳川 大蔵

五月八日は、市内全ての小中学校で命の大切さについて考える日です。これは、十二年前に市内の学校で、いじめを受けていた子の尊い命が失われる

という大変悲しい出来事があったことがきっかけで始まった取組です。この悲しい出来事を教訓に、この日を命の大切さといじめの根絶について真剣に考える機会としています。

さて、「いじめ」という言葉はよく聞く言葉ですが、何がいじめか分りにくいこともあります。そこで皆さんに問いかけたいのが、「いじめのないクラスにするにはどうしたらよいか」ということです。きっと、皆さん全員は「いじめのないクラス」を望んでいると思います。では、それを実現するために、どんなことを大切にしたらよいのでしょうか。私が大切だと考えることは二つあります。

一つ目は、人の気持ちを考えることです。相手が嬉しいのか、嫌な気持ちになっているのか。相手をよく見て気持ちを考えて、誰でも気付くはずなんです。これが最も大切です。

二つ目は、自分の気持ちを伝えることです。いじめをされた人は「嫌だった」、見ていた人は「やめてほしいかった」、いじめをしてしまった人も「悪かった」という気持ちを伝えることです。相手や友達、先生に相談することです。自分の気持ちを伝え、周囲に相談できるクラスは、いじめが起る前に解決できます。

この後、命の大切さについて考える標語をクラスで考えます。皆さんが考えたことを標語に表し、みんなが安心して過ごせるいじめのない学校を一緒に創っていきましょう。

(廿日市市立阿品台東小学校)

委 員 会 教 育 課 広 島 県

全ての児童生徒の

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて

「今こそ教師の指導性の発揮を」

広島県教育委員会事務局学びの変革推進部

義務教育指導課長 松尾 真理

令和 7 年度全国学力・学習状況調査

において、広島県では主体的・対話的で深い学びに取り組んだと考える児童生徒の割合は全国平均より高く、これまで受けた授業は個別最適な学びになっていると感じたり、協働的な学びに取り組んだと考えたりしている児童生徒の割合も全国平均より高かった。これらの結果は、各学校において「学びの変革」に着実に取り組んでいたできてきた成果であると捉えている。一方で、学習につまずいている児童生徒は、自分にあつた教え方、教材、学習時間などになっていないと考えていることも見えてきた。

広島県では、昨年度、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けてのポイントとして、「深い教材研究」「個の見取り」「個への支援」の三つに整理し、県教育委員会のホームページに解説動画とともに公開している。これらは、決して新しい考え方ではないが、授業づくりに関する様々な情報がインターネット等で簡単に手に入る今だからこそ、各学校において改めて皆で確認し、教師が指導性を発揮することに

ついて考えることが重要である。

例えば、教師は、授業中、ただ教室内を歩いたり、端末の画面を眺めたりしているだけでは意味がない。目の前の児童生徒一人一人の興味・関心や能力・特性、つまずき等を把握し適切に解釈した上で、間接的な指導として学

随 想

「日々は学び、そして感謝」

副会長 佐々木 孝

校長二年目の今を振り返ってみた。当たり前だが一日たりとも同じ日はない、「一日一生」である。

毎朝、児童玄関前で登校する子供たちを最大限の笑顔で迎えながら、体調や心の状態を観察している。校長になったら取り組むと決めていたことだ。子供たちの笑顔に元気をもらったかと思えばすぐに思いがけない出来事が起こり、即時判断や時には重い決断を迫られることもある。校長の力量が常に問われていると、深く実感している。

子供の成長を教職員と喜ぶ場面も多いが、未然防止や早期発見、初期対応の甘さを振り返り、校長としての未熟

習環境を整えたり、直接的な指導を行ったりすることが求められる。教師による適切な指導や関わりが子供たちの主体的な学びを促すのである。

子供たちの学習のつまずきの要因等を把握するために、ぜひ「広島県学習の基盤に関する調査」や本調査の結果から予想される学習のつまずきと、考えられる支援の手立て例をまとめた参考資料を御活用いただきたい。

広島県の全ての児童生徒が「できた」「分かった」と思える「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、各学校の取組が一層充実することを期待している。

さや責任を感じることも多い。しかし、対応した経験は、すべて校長としての成長の糧になると信じて、一つ一つの対応が校長修行であると前向きに受けとめている。

また、今年度、県連小副会長という立場も仰せつかり、多くの校長先生方や関係者の方々と出会う機会に恵まれた。慣れない役割に戸惑いもあるが、周囲の支えや助言に導かれながら今日に至っている。「立場が人をつくる」の言葉どおり、役割を果たすことで校長としての視野を広げ、学校経営力を向上させるよい機会を得ていることに感謝している。

あ と が き

（三次市立三和小学校）

今年度の教育研究大会北部大会が成功裡に終わりました。運営・発表にかかわってくださった多くの皆様に心から感謝いたします。

さて、本年度も折り返しを迎え、年度後半に向けて様々な学校行事を行いながら人材育成の推進、働き方改革の推進等、多岐にわたる課題もあり、校長先生方にとって大変なご苦労・ご心労があることと思います。そのような中で、会報一九七号が発行できましたことは、ひとえに皆様方のおかげと感謝しております。県連小広報活動が、少しでも皆様の学校経営の一助となれば幸いです。発行に関わってご尽力いただきました皆様に感謝申し上げます。